

氏名：舟木耕太（福山市立神辺中学校）

現地勤務先：イニヤミッサ中等学校

カニマンボ Canimambo

モザンビークからの便り



ありがとうという意味の現地語です

Boa tarde！（こんにちは！）

はじめまして、私は舟木耕太といます。3月まで福山市立神辺中学校で数学の教師をしていました。今回、青年海外協力隊としてアフリカのモザンビークという国に、中等学校（日本の中学校・高等学校）の数学教育の隊員として派遣されることになりました。

モザンビークはどんな国？

モザンビークはインド洋に面した南北に長い国です。日本との時差が7時間。日本で晩御飯を食べる頃がモザンビークのお昼です。南半球なので、北に太陽を望む不思議な感覚です。日本の夏がモザンビークの冬で、昼は暑いですが、朝方は10度を下回ることもあります。

モザンビークは平均寿命が50歳を下回り、一人当たりGNIが470ドル（日本は44,900ドル）で人間開発指数は世界187か国中185位で、世界の最貧国の1つとされています。しかし、内戦終了後は政治・経済共に安定し、成長を続けています。

2014年当初には安部首相も当国を訪れて支援を表明するなど、注目の集まる熱い国です。



アフリカの南東、海に面しており、かつてポルトガルの植民地でした。料理も美味しいということです。

モザンビーク派遣までの道のり

青年海外協力隊は、1年に4回の派遣があります。今回私が派遣される平成26年度1次隊は、4月から6月までの70日間、福島県二本松市にて合宿式の派遣前訓練があります。様々な年代、職種の人が共同生活を送りながら、訓練を無事修了した後、世界のあちこちに派遣されることとなります。

モザンビークの公用語はポルトガル語です。この70日の間に中学校3年間の英語に匹敵する量の授業を受けます。毎日5時間、さらに宿題や自習もします。初めて学ぶ言語ですが、少しずつ喋れるようになるのが嬉しくて、達成感や充実感があります。

語学だけでなく、スポーツテストや運動会、班活動、野外訓練など様々なイベントもあります。これから世界に飛び出して活躍するために、心も身体も鍛えます。



福島の現状についても考えさせられました。人が温かく、野菜も美味しく、自然も豊かな福島県。しかし、震災と原発による様々な課題があります。広島にいてできることは、まずは関心を向けることかなと思いました。



↑ 避難区域は3年前のままの姿です。

二本松訓練所の1日

- 6時 起床。毎朝朝の集いがあり、ラジオ体操、ランニングを行います。
- 7時 朝食
- 8時 午前中の授業
語学の授業です。
- 12時 昼食
- 13時 午後の授業
語学の他にも、予防接種や任地での活動に向けて講義を受けます。
- 17時 自習時間
- 18時 夕食
- 19時 班ミーティングや自習をします。
- 23時 就寝



↑ 今回、180人以上の仲間と訓練を行いました。



←モザンビークの方を招いて交流会も行いました。

モザンビークに到着して

日本からモザンビークへの直行便はありません。成田から香港、南アフリカを経由してモザンビークへ向かいます。合わせて24時間です！さらに残念なことに、今回は飛行機の遅延もあり、合わせて30時間もかかってモザンビークにたどり着きました。しかし、初のアフリカの大地！感動で旅の疲れも飛びます。



↑マプトは海に面した港湾都市です。

しばらくは首都マプトで生活をしながら、配属先で活動するために必要な準備をします。ポルトガル語の学習はもちろん毎日やりますが、マラリア予防や安全対策も大切です。自分の身は自分で守ること。日本のように安全な国はありません。こちらで生活する感覚を早く身に着けたいです。

この期間中はモザンビーク人の家でホームステイをします。私のお母さんの名前は Vembane さん。アパートの5階にある家に住んでいます。こちらの建物は、0階も数えるので、日本で言う6階になります。こうした「違い」も面白いです。



お母さんの作ってくれる料理はとても美味しく、勉強にも身が入ります。モザンビークの主食は米に、シマと呼ばれるとうもろこしの粉を練ったものが食べられています。他にもパンもあちこちで売られています。



次回はいよいよ、勤務先からお伝えしたいと思います！